

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・単元「10より大きなかず」で，20までの数を表す方法を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・10より大きな数は，「10のまとまり」と「ばら」で表せば分かりやすいことを学習している。

教材研究ノート№1-A-13

≪学習問題≫

ジャンボカボチャのたねのかずは

いくつでしょうか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し:20より大きな数はどう表せばよいのだろう。

→10のまとまりとばらの数を分けて表せばよい。

②学習課題:先生のとったたねのかずを，ブロックや数え棒を使って10のまとまりとばらに分けて，数字で表そう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：ブロックや数え棒を使って並べ，数字で表す。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの求め方にも共通していることって何だろう？」

→「10のまとまりが2つとばらが6つある。」

（「十のくらい」「一のくらい」「26」と表すことを，位取り板で確認する。）

④共同追究後半（思考を深める）

「ちょうど10のまとまり3個だったらどう表したらよいか？」

→「ばらが0なので，30と書けばいい。」

「二十の時も一の位が0だったので，20と表した。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・10のまとまりが2つ，ばらが6つで「にじゅうろく」とよんで26とかく。

・10のまとまりを「十のくらい」，ばらを「一のくらい」という。

・ばらがないときは，0をつかって，30とあらわせばよい。20のときと同じだ。

⑥定着・活用問題

(1) 自分のとったたねの数を，数字でかきましょう。

(2) 76を10のまとまりとばらにわけてみよう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，一度数える操作をさせた上で，困難点を発表し合い，10のまとまりをつくる見通しをもたせたい。

・グループやペアで分担して数えさせることも可能であるが，個の学習を保障することを大切にしたい。

・「10の束がいくつとばらがいくつで、いくつ」という表現の仕方を共通理解させ、十進位取り記数法の学習につなげたい。

【板書計画】